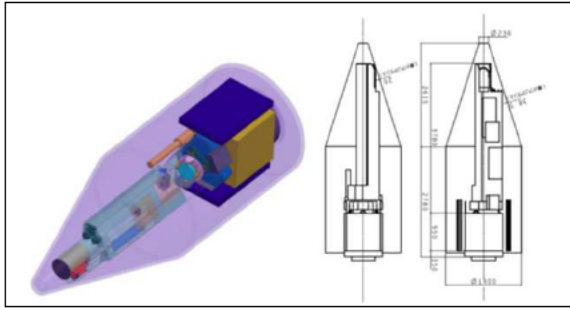


じきたいようかんそくえいせい 次期太陽観測衛星 SOLAR-C

© NAOJ/JAXA

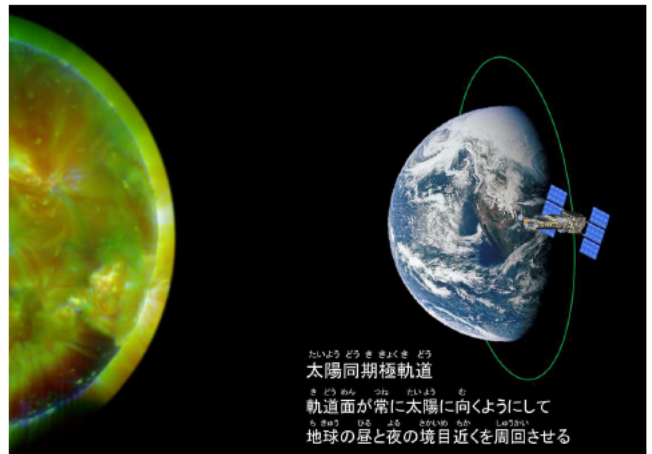
ソーラーシー
SOLAR-Cは、ひのとり (ASTRO-A)、ようこう (SOLAR-A)、ひので (SOLAR-B) の後に続く**太陽観測衛星**です。観測装置として極端紫外線高効率分光望遠鏡 (EUV High-throughput Spectroscopic Telescope: EUVST) を搭載し、彩層からコロナまでをひので衛星の可視光・磁場望遠鏡に近い0.4秒角の解像度 (太陽面で大きさ300 kmの構造を分解) で観測できるようになります。



打ち上げロケットフェアリング内での衛星レイアウト。
© NAOJ / JAXA



SOLAR-C ウェブサイト
<https://solar-c.nao.ac.jp>



太陽同期極軌道
軌道面が常に太陽に向くようにして地球の昼と夜の境目近くを周回させる

SOLAR-Cの機体・運用案

サイズ	約 1 m × 1 m × 5 m (太陽電池パネル含まず)
重量	約 500 kg
軌道	太陽同期極軌道 (高度600 km以上)
運用期間	2年以上
観測機器	極端紫外線高効率分光望遠鏡 EUVST 太陽紫外線放射照度計 SoSpIM
ロケット	JAXA イプシロンS
打ち上げ予定	2020年代半ば頃

(上) SOLAR-Cの機体外観図と(下) 太陽同期極軌道の説明図。
© NAOJ / JAXA [地球・星野写真 © NASA]

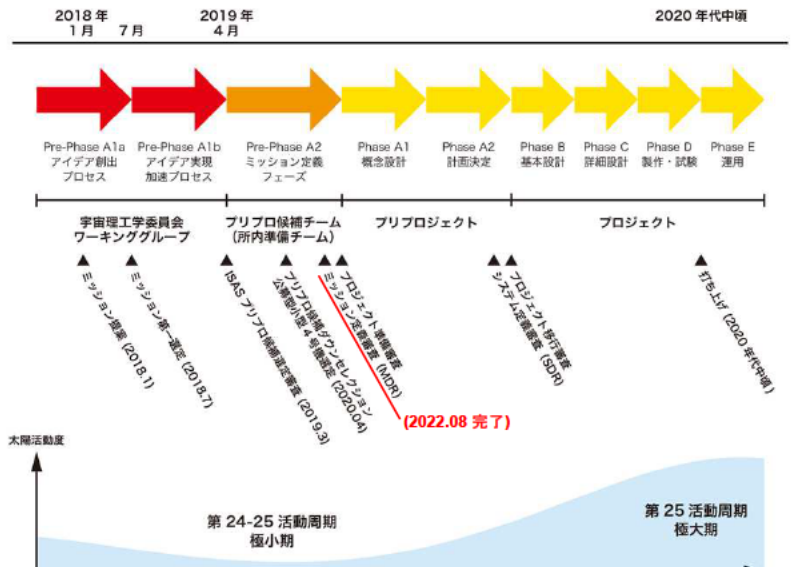
国際・国内協力と今後のスケジュール

SOLAR-Cは、日本が中心となって米国航空宇宙局 (NASA)、欧州宇宙機関 (ESA) とドイツ・フランス・イタリア・スイス各国の宇宙機関が参加しておしすすめる衛星計画です。国内では、おもに宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所 (JAXA / ISAS) と国立天文台 (NAOJ) が装置開発を行い、名古屋大学宇宙地球環境研究所 (ISEE) をはじめ全国の大学と研究機関がデータ解析と運用などに参加します。



国立天文台

© NAOJ / JAXA



© NAOJ / JAXA